

2026年1月22日（水）開催 全国理事会 阿部理事長挨拶

皆様、新年明けましておめでとうございます。

1月のお忙しい時期に全国の理事、参与、事務局の皆様にはお集まりいただきありがとうございます。今日は2026年最初の全国理事会ですので、冒頭にいくつかお話ししたいと思います。

まずは遊技産業の一つの大きな課題である依存問題ですが、永年業界の依存問題対策を進める上で、大きな役割を担っていただいているRSNの代表理事が西村代表から稲村代表に1月1日付で交代されました。

全日遊連からは正式に皆さんへのご連絡は行っていませんでしたが、21世紀会の賀詞交換会において、感謝状をお贈りする予定にしています。

今後もRSNの活動はしっかりと継続していきますし、業界としての連携する形に関して変わりはありませんので、引き続きご支援を含め、よろしくをお願いします。

2つ目は、1月17日に阪神淡路大震災から31年が経ちました。その後東日本大震災、北海道胆振東部地震、熊本地震、また一昨年の能登半島地震と地震以外にも多くの災害がありますが、日本は災害の多い国です。

そうした環境の中で、被災地においては災害が起こった場合に国、自衛隊や、県などの救援活動が動くまでに、災害地の皆さんは地元で命をつなぐ活動をしないではいけないと思います。そうした場合に日本全国にあるパチンコ店は比較的大きな強固な建物で、防災、救援拠点として活用していただけたと思います。建物だけではなく、店舗には水をはじめとするペットボトルの飲料や、ちょっとした食べ物があります。そうしたものを活用していただくと1～2日は地元で命をつなぐ活動ができると思います。こうした日本全国の防災拠点となり得るパチンコ店を日本全国でしっかりと残していくことが、日本という国の安心安全を守る上で必要だと私は考えています。しかし残念なことに能登半島中心部にあって震災で大きく被災した5店舗においては廃業を余儀なくされております。能登半島におけるこのような活動が出来なくなってしまったことに関しては「能登なりわい再生補助金」の対象から我々遊技産業が除外され、災害時にも支援の

対象外となっていることに関して、国や、各都道府県の認識について変えてもらう活動がもっと必要だと思っています。

今月 16 日に一般社団法人日本アミューズメント産業協会の賀詞交歓会があり、お招きいただいたので、参加させていただきました。

12 月 16 日に開催されました、遊技産業議員連盟でも日本アミューズメント産業協会の柴田専務理事からご発言いただき、ゲームセンターにおいては言葉がわからなくても来店される方が多くなっているとのことでした。我々パチンコ店を含むアミューズメントの業界においては、インバウンドの方々に遊んでいただくと思うと、言葉の問題が大きいことから、現在は認められていない「留学生の資格外労働」に対する規制緩和の要請を行っています。今後観光立国として今まで以上の訪日外国人を増やすのであれば、「ナイトタイムエコノミー」つまり、夕食後の夜間の様々な活動を通じて、地域の魅力や文化を発信し、消費拡大などにつなげる考え方の一端を担っていく必要があると思います。

賀詞交歓会の場において、柴田専務の話では、ゲーム産業はコロナ禍以降多くのシニア層の方々が、コインゲームで遊ばれる方が増えて、右肩上がりだという事です。パチンコ店で遊べなくなった方々の行先としてのニーズが高まっているとのことでした。

2030 年には大阪にカジノが開業します。その際に我々遊技産業は、カジノと同じような遊び方で営業を行っていたとすると、カジノは 24 時間営業で、また掛け金に関しても制限がありません。こうした中で我々遊技産業との差別化が図られないとすれば、現状の我々の営業を支えている多くのヘビーユーザーがカジノに移ってしまうことも考えられます。カジノは、2023 年に大阪に認定され、法律上「国内最大 3」とされる認定数の残り 2 枠に関して、政府は 2027 年 5 月から追加受け付けを行う方針を示しています。つまりカジノは大阪だけではなく、まだ新たに開業されていくことが想定されています。「遊技とカジノ」「遊びとギャンブル」という事をここ 2 年のうちにははっきりと住み分けすることが業界の将来に向けて、非常に重要だと思っています。つまり我々遊技は遊びとしての場を提供することによって、これからの高齢化社会においてもその存在をしっかりと維持で

きていくと思います。

今年はこの課題などを遊技産業全体として解決しなければ、店舗数やファンの減少を止めることはできないと思います。今年には依存問題も含めて、今後のカジノに対して業界としてどのような形で行動していくのか、業界全体として考えていきたいと思っています。

それではいつも通り、全国理事会の冒頭の挨拶を行います。

本日は冒頭警察庁の保坂課長より、新年の講話をいただいたところであり、講話の内容は、後日文書にて皆様にお送りいたしますので、ご指導いただいた点についてよくご確認いただき、組合員への周知をお願い致します。

さて、本日の議題につきまして、決議事項は2つございます。第1号議案は、「第35回全国ファン感謝デー手数料の都道府県組合還元について」です。

第2号議案では、「回胴式遊技機の回収スキームについて」を上程しております。前回の全国理事会では、自主回収に関する取り決めについて修正案をご報告いたしましたが、その後検討を重ね、最終案として取りまとめました。つきましては、本修正案について最終的な決議を賜りたく存じます。

続いて報告事項(1)「パチンコ・パチスロ依存問題への対応について」では、昨年組合員ホールにご回答いただいた「2025年依存対策実施状況調査」の集計結果を星野副理事長よりご報告させていただきます。

なお、本調査にあたりまして、ご回答いただいた組合員ホールならびに各都道府県組合事務局による回答率向上へのご協力に深く感謝申し上げます。

報告事項(2)「ホールにおける広告宣伝への対応状況について」では、お試しプレイのプレテストなど「について合田副理事長より報告させていただきます。

報告事項(5)「(株)スパイキー製『L 荒野のコトブキ飛行隊 SS』に関する対応について」では、攻略法の発覚を受けて、稼働停止となった当該遊技機に関する対応について、星山副理事長よりご報告いたします。

その他、関係他団体と開催した会議の協議結果、各委員会でご協議いただいた重要案件を多数上程しております。最後まで宜しくお願い申し上げます。

以上